

研究成果情報

令和3年度

黄緑色の外観が美しい日本なし良食味新品種「新園9号」

[要約]自家和合性の日本なし新品種「新園9号」を育成した。外観の美しい青なしで、糖度が高く食味評価が高い。収穫期は9月中旬～10月上旬である。自家受粉で着果するため、人工受粉作業が不要となり、春作業の大幅省力化が実現できる。

新潟県農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科

連絡先

TEL 0254-27-5555

FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

新潟県は古くからのなし産地であり、全国有数の消費地でもある。しかし、開花期の天候不順による着果不良や、主要品種の人工受粉作業や防除作業等の春作業の競合が栽培上の問題となっている。そこで、自家和合性を有する良食味品種を育成し、オリジナル品種のラインナップに外観の美しい青なしを加えることにより、県産果実の消費拡大と国内外にアピールできる新たなブランドづくりを目指す。

[内容]

1 育成経過

平成14年に「瑞秋」と「平塚16号」(通称:かおり)を交雑し、黒斑病抵抗性個体を選抜した。平成21年に自家和合性で品質が良いことから「新園9号」として選抜した。栽培性、均一性を確認し、平成26年に育成を完了した。令和2年まで現地試験での評価を行った。

2 果実の特徴

- (1) 収穫期は9月中旬から10月上旬で、「豊水」や「あきづき」の収穫期と重なる(表1、2)。
- (2) 大果で玉揃いが良く、黄緑色の果面が美しい青なしである(図1)。糖度が高く、酸味が少ないため甘味を強く感じ、食味評価も高い(表2、図2)。

3 栽培上の特徴

- (1) 花芽の着生が多く、自家和合性であるため、人工受粉しなくても着果が安定する(表2)。
- (2) 黒斑病抵抗性であるため無袋栽培も可能であるが、青なしの果面の美しさを出すためには一重袋での有袋栽培が望ましい。

[導入効果]

- 1 人工受粉が不要なため、開花期の天候不良の影響を受けにくく、生産安定に寄与できる。
- 2 春作業の競合がなくなるため、経営規模拡大が可能となる。

[導入対象]

- 1 良食味品種への品種更新や経営規模拡大の意向がある県内なし生産者
- 2 水稲との複合経営で果樹の新規導入の意向がある農業者

[留意点]

- 1 着果が安定しているため、「新美月」等と同様に開花前の除芽で摘果作業の省力化を図る。原木では生理障害の石ナシが確認されたため、接木苗の台木はマメナシを用いる。
- 2 現在、品種登録出願中であり、令和5年度以降接ぎ木苗の供給が開始される予定である。

[具体的データ]

表1 新潟県の日本なし主要品種と「新園9号」の収穫時期

品種	収穫時期				自家和合性
	8月	9月	10月	11月	
幸水				
豊水				
新美月				○
二十世紀				
新王				○
あきづき				
新園9号				○
新高				
新興				

注 表中の実線は県育成自家和合性品種、点線はその他の品種の収穫時期を示す。

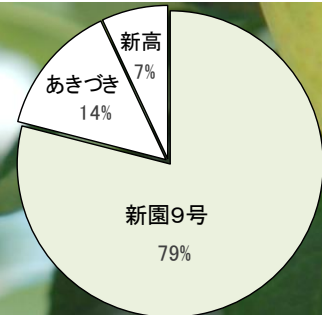


図2 「新園9号」と競合品種の嗜好性比較

注 選択法により3品種の中から一番おいしいと感じたもの1品種を選択した(平成25年、被験者56人)

図1 「新園9号」の果実(実物大)

表2 「新園9号」の生態と果実品質

品種名	開花盛期	収穫期		果重 (g)	果皮色 (地色)	果肉硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	酸味 (pH)	着果率 (%)	
		始	終						放任	人工受粉
新園9号	4/24	9/14	10/7	598	3.9	5.8	13.6	5.3	81.1	—
(二十世紀)	4/24	9/16	10/3	342	—	—	11.1	4.6	—	—
豊水	4/21	9/8	9/22	435	3.3	5.8	13.2	4.9	0.8	20.4
あきづき	4/26	9/23	10/2	514	4.5	4.8	13.3	4.7	—	—

注 平成28～令和2年の平均値、二十世紀は参考値(平成元～7年の平均値)、着果率は令和2年(着果不良年)の調査データ、果皮色(地色)は果実カラーチャート、ニホンナシ地色(1～6)の値。

[その他]

研究課題名: にいがた園芸生産の牽引役となるオリジナル品種の開発と優良品種の選定、他

予算区分: 県単経常

研究期間: 平成14～令和2年

発表論文等: なし